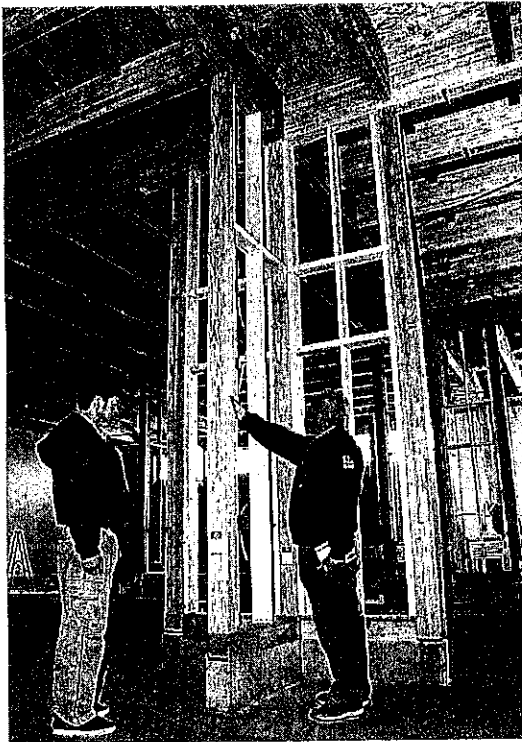


# 塚田精機が木造新工場

## 沼津 強度維持、費用は抑制



塚田精機の新工場の構造部分。完成時はすべて防火の内装材で覆われる  
—沼津市足高

精密金属部品加工の塚田精機（沼津市、塚田和彦社長）が県東部では珍しい木造の新工場を同市足高で建設している。一般に工場棟は鉄骨造りで建設するのが主流だが、同社は強度、費用、環境負荷などを総合的に判断して木造軸組み工法を採用した。

新工場は2階建て、延べ床面積約990平方メートル。構造用の集成材と合板を活用し、工場に求められる広い空間と強度を確保した。木材調達とプレカットを木材建材販売のマルダイ（富士市、深沢裕一）が担った。

郎社長）、施工を住宅・店舗建築の工藤建設（沼津市、工藤克敏社長）が担った。

木材の需要拡大と低炭素社会の実現に向け、2010年施行の公共建築物等木材利用促進法は、公共建築物の木造化の促進を明記した。民間建築物への波及効果も期待している。

マルダイの功刀友輔プレカット事業部長は「流通材を適切に組み合わせることで、住宅以外の大型木造建築でも強度を保ちながら費用を抑えることが可能になる。次の段階とし

て、民間の大型物件に「検討したい」と話し地域材が活用できるよた。